

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	篠原 恵美子
評価者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	篠原 恵美子

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	県立生涯学習施設年間利用者数	人	353,000 (H27)	372,560 (H26)	368,742 (H27)	A
施策2	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	人	7,500 (H27)	8,625 (H26)	8,674 (H27)	A
施策3	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	5,400 (H27)	5,119 (H26)	7,217 (H27)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み					評価		
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
施策1	課題1 県民大学の充実	石川県民大学校修了者数(累計)	人	15,000 (H27)	15,463 (H26)	16,119 (H27)	1: 県民大学校費	県民	39,319	39,255	A	継続
							2: ふるさと学習推進事業費	県民	1,280	1,242	B	継続
	課題2 図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	件	242,000 (H27)	163,296 (H26)	186,251 (H27)	図書館マルチ検索・予約システム運営費	県民	19,004	19,004	B	継続
施策2	課題1 心の教育の推進	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	点	28,000 (H27)	23,966 (H26)	28,496 (H27)	心の教育推進事業費	青少年等	7,940	7,940	A	継続
	課題2 親学び講座「肝心かなめの1年生塾」の開催支援	「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合	%	100 (H28)	100 (H26)	100 (H27)	家庭教育総合推進事業費	新小学校1年生の保護者	1,800	1,768	B	継続
	課題3 インターネット等の適正利用の推進	各PTAにおける「情報交換会」の実施率	%	100 (H28)	98.5 (H26)	100.0 (H27)	インターネット等適正利用推進事業費	PTA	2,678	2,636	B	継続
施策3	課題1 いしかわ子ども自然学校の実施	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	5,400 (H27)	5,119 (H26)	7,217 (H27)	いしかわ子ども自然学校推進事業費	小・中学校生	5,207	5,170	A	継続
	課題2 海洋チャレンジプログラムの実施	参加児童・生徒の満足度	%	100 (H27)	96.3 (H26)	98.2 (H27)	海洋体験活動推進事業費	小学校4年生～中学校3年生	1,569	1,517	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民大学校費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
	根拠法令	石川の教育振興基本計画		
	計画等			

作成者	組織	生涯学習センター			
	職・氏名	担当課長 谷村 誠一郎			
	電話番号	076 - 223 - 9572 内線721220			

事業の背景・目的
 多様化・高度化する県民の学習要求に応え、本県の豊かな自然と文化の継承発展を図りつつ、社会の変化に対応できる創造的で活力ある県民の育成を図り、生涯にわたる学習の機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 県民大学校・大学院の開設
 - ・大学校教養講座(30単位未満)
 - ・大学校専門講座(30単位以上)
 - 6コース:文化探究、国際理解、スポーツ・生活、産業・情報、能力開発、放送利用
 - ・大学院石川の博士養成講座(30単位)
 - 2コース:専修コース(文学・自然・歴史)、講師養成コース
 - 2 県民大学校・大学院修了証書交付式の開催
 - ・H26修了生に修了証書を交付
 - ・記念講演会
 - 3 講座の開設
 - ・ファシリテーター養成講座、あすなる悠々塾、能登文化講座など
 - 4 放送利用講座の開設
 - ・テレビ番組「ふれあい空間いしかわ」(27回放送)、「いしかわ大百科」(17回放送)
 - 5 広報等
 - ・ポスター、受講案内等の作成・配布

- これまでの見直し状況**
- ・H11年度 県民大学校大学院「石川の博士」養成講座を開講
 - ・H17年度 県民の生涯学習活動を通して培った成果を発表する機会として「県民企画講座」を実施
 - ・H19年度 「生涯学習コーディネーター養成講座Ⅰ・Ⅱ」を「生涯学習コーディネーター入門講座」、「生涯学習コーディネーター実践講座」に再編
 - ・H20年度 「生涯学習コーディネーター入門講座・実践講座」を「いしかわいきいき講座」、「生涯学習ファシリテーター養成講座」に再編
 - ・H21年度 「生涯学習ファシリテーター養成講座」にスキルアップ講座を設置
 - ・H22年度 「あすなる悠々塾」を開設し、県民が自主企画した講座を実施
 - ・H23年度 事業の見直しにより、「びっくり科学教室」「地域活動指導者専門講座」を廃止
 県主催の映像関係講座の一部(シネマ・アフタヌーン、子ども映画会)を市町に移管
 - ・H24年度 「あすなる悠々塾in能登」を開設する一方、「はじめてのパソコン教室」を廃止
 - ・H25年度 「いしかわいきいき講座」を廃止(別予算の「ふるさとモット学び塾」に発展継承)
 - ・H26年度 ミュージアムウィーク及び北陸新幹線金沢開業にあわせ、「スペシャル講演会」を開催
 - ・H27年度 「ゴールデンウィークスペシャル講演会」を開催
 センター主催講座に子育て世代を対象とした「ファミリー・カレッジ in 本多の森」を新設するとともに、連携講座で子育て世代を対象としたものを「ファミリー・カレッジ」に再編

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	評価	A			
課題	県民大学校の充実					
	指標	石川県民大学校修了者数(累計)	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	15,000	13,686	14,283	14,903	15,463	16,119

事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	38,092	37,376	37,543	37,401	39,319
	決算	38,090	37,336	37,528	37,325	39,255
一般	予算	38,092	37,376	37,543	37,401	39,319
財源	決算	38,090	37,336	37,528	37,325	39,255
事業費累計	934,330	971,666	1,009,194	1,046,519	1,085,774	

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 平成27年度は、1講座30単位以上の専門講座の受講者数が増加したことなどにより、県民大学校の修了者数は過去10年では最多の656名に達し、第2期石川の教育振興基本計画の達成目標である、平成32年度修了者累計18,000人に向けて順調に推移した。また、受講者数についても、ふるさとふれあい講座、あすなる悠々塾、能登校講座などの一層の浸透、新規講座ファミリー・カレッジ in 本多の森の実施などにより、特にセンター主催講座の受講者数が前年度比で約1,000名増加した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 既存講座の内容の充実、ファミリー・カレッジ in 本多の森の実施による若年層受講者の開拓、県民大学校実施機関の増加に努めるとともに、県民に向けて講座情報を効果的・効率的に発信し、県民大学校の新規受講者を掘り起こしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ふるさと学習推進事業費	事業開始年度 H25	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	石川の教育振興基本計画

作 組 織	生涯学習センター
成 職・氏名	担当課長 谷 村 誠一郎
者 電話番号	076 - 223 - 9572 内線721220

事業の背景・目的
 北陸新幹線金沢開業を控え、子どもから大人まで広く県民が、おもてなしの心の源であるふるさとへの愛着と誇りをこれまで以上に持てるよう、石川の里山里海や文化・歴史等について知識を深める「ふるさとモット学び塾」を開設し、ふるさと学習の機会を広く提供する。

事業の概要

- 1 「ふるさとふれあい講座」の実施
 - (1) 本多の森庁舎会場
 - ・内 容 石川の里山里海や文化・歴史等をテーマとした全10講座
 - ・実施日 平成27年7月～11月
 - ・定 員 130名
 - (2) 現地講座
 - ・内 容 史跡・偉人ゆかりの地等を専門家とともにバスで巡る現地講座6コース
 - ・実施日 平成27年9月～11月
 - ・定 員 各コース35名
- 2 「ふるさと発見出前講座」の実施
 - ・石川の里山里海や文化・歴史等をテーマとした出前講座
 - ・実施日 平成27年7月～28年2月
 - ・対 象 小中学校15校 公民館10館
- 3 講座のインターネット配信
 - ・講師の了解を得たものをインターネット配信
- 4 「いしかわを知る講座」の実施
 - ・内 容 石川の歴史・文化・自然・産業等をテーマとした講座
 - ・実施日 平成27年6月～10月
 - ・定 員 40名

これまでの見直し状況

- ・H26年度 各講座の定員・対象の見直し
 (本多の森庁舎会場 100名→130名、出前講座 公民館10館→20館)
- ・H27年度 講座数・対象の見直し
 (現地コース5コース→6コース、出前講座 公民館20館→10館)

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり				評価	A
課題	県民大学校の充実					
	指標	石川県民大学校修了者数(累計)			単位	人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	15,000	13,686	14,283	14,903	15,463	16,119
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算			2,000	1,600	1,280
	決算			1,991	1,345	1,242
一般	予算			2,000	1,600	1,280
	決算			1,991	1,345	1,242
事業費累計				1,991	3,336	4,343
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ふるさとふれあい講座「本多の森会場」の受講者総数は、対前年比28%増、同「現地コース」の申込総数は対前年比49%増であった。講座後のアンケート調査では、「本多の森会場」で90%、「現地コース」で98%の受講者が「とても良かった」「良かった」と回答しており、本事業は県民にとって有効なものである。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	講演型講座では座席の追加、現地訪問型講座では受け入れ人数の増など、定員を超える場合であっても希望する県民が一人でも多く受講できるよう工夫を図る。幅広い年齢層の受講者を呼び込むため、小学生と保護者を対象とした現地講座を設ける。また、能登分室との連携を強化し、能登在住者が参加しやすい環境づくりをする。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 図書館マルチ検索・予約システム運営費	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
	根拠法令	石川の教育振興基本計画		
	計画等			

作組	織	図書館			
成職	氏名	企画協力グループ 専門員 上田 敬太郎			
者電	話番	号	076	-	223
				-	9581
					内線 77246

事業の背景・目的
 インターネット上に所蔵情報を公開し、利用者自らが自宅のパソコンや携帯電話で蔵書検索、貸出予約ができる機能を整備し、広く県民の図書館利用を促進する。県内全域において、より利便なサービスの提供に努める。
 また、県立図書館と県内の市町立図書館や大学図書館の蔵書の所蔵情報が同時に検索できる「インターネット横断検索」システムによる、県内図書館所蔵資料のネットワークを整備する。

事業の概要

- (1) 図書館業務システムの管理と運用
 ・貸出・返却、蔵書管理等の図書館電算業務の運用

- (2) 「図書館情報ネットワーク」システムの運用

(3) 「図書館情報県民開放」システムの運用
 インターネット予約・相互貸借利用件数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
インターネット予約	17,661	18,377	16,924	17,790	16,802	17,876	18,976
うち相互貸借	9,726	9,756	9,171	10,504	8,407	8,258	8,981

(4) 図書館横断検索システムの運用
 横断検索システム利用件数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
横断検索システム	142,093	154,458	171,042	162,418	148,439	163,296	186,251

- ◆ 石川県立図書館電算化システムの経緯
- | | |
|--------|---|
| 平成 9年度 | 県立図書館電算システム導入・運用開始 |
| 10年度 | インターネットによる「ライブラリーネットいしかわ」(石川県立図書館ホームページ)の運用開始 |
| 11～ | インターネット横断検索システムの運用実験 |
| 14年度 | インターネット横断検索システム本稼動 |
| 18年度 | 県立図書館電算システム更新 |
| 23年度 | システム機器を再リース |
| 24年度 | 県立図書館電算システム更新 |

- ◆ 石川県内公共図書館 電算化の現状(H27.3)
- ・電算システム導入館:41館(県立1、市町立36、大学4)
 - ・横断検索システム参加館:41館(県立1、市町立36、大学4)

これまでの見直し状況

H24年度 システム更新
 県内図書館ポータルサイトを開設し、相互貸借に係る事務を効率化
 「デジタル版『石川県史』、延宝金沢図』をインターネット公開

25年度 ホームページ「貴重資料ギャラリー」に新たに資料338点を公開

27年度 県立図書館所蔵大型絵図デジタル化画像48点をインターネット公開

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	評価	A			
課題	図書館マルチ検索・予約システムの運営					
	指標	横断検索システム年間利用件数	単位	件		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	242,000	171,042	162,418	148,439	163,296	186,251

事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	21,330	11,105	18,913	19,040	19,004
	決算	21,305	11,088	18,909	19,040	19,004
一般	予算	21,330	11,105	18,913	19,040	19,004
	決算	21,305	11,088	18,909	19,040	19,004
財源	決算	21,305	11,088	18,909	19,040	19,004
事業費累計		771,463	782,551	801,460	820,500	839,504

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: right; margin-right: 10px;">左記の評価の理由</p> <p>B インターネットを利用した蔵書の予約システムや、県立図書館所蔵大型絵図デジタル化画像のインターネット公開などにより非来館型サービスの充実を図り、SNSによる情報発信にもつとめた。また、県内図書館の蔵書を一括して検索できる横断検索システムの活用及び協力宅配便の増便により、図書館間で図書の貸し借りができる相互貸借の搬送数は前年度より約13%増加した。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p>今後とも、県民が等しく図書館サービスを受けられるよう、インターネットを活用した非来館型サービスの効果的な運用に取り組む。</p> <p style="text-align: center;">継続</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 心の教育推進事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
	根拠法令	石川の教育振興基本計画		
	計画等			

作組	織	生涯学習課			
成職	氏名	課長補佐 中尾 知巳			
者	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5607			

事業の背景・目的
 心豊かでたくましく生きる子どもを育む環境の醸成を図るため、豊かな人間性を培う「心の教育」を県民を挙げての運動となるよう努めてきたが、いじめ・不登校や非行の問題など子どもたちを取り巻く状況は、依然として憂慮すべき状況にあり、「石川の教育振興基本計画」においても、心の教育の充実を施策の方針の一つに位置づけている。
 そのため、引き続き、学校・家庭・地域が連携した「心の教育」の充実に向けて各種事業を展開し、県民意識の高揚を図る。

- 事業の概要**
- 心の教育推進総括事業
 - 心の教育推進協議会の開催
 会長に教育長、学校・家庭・地域を代表する委員17名で構成
 - 心の教育推進大会の開催
 - 家庭・地域教育力向上推進事業
 - 親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」の募集
 - グッドマナーキャンペーンの実施
 - 子どもの生活リズム向上推進事業
 - ラジオ広報(24回放送 各方面で活躍する県ゆかりの方へのインタビュー)
 - スポーツ選手ふれあい事業
 - いじめ・不登校対策事業
 - 生徒指導課題相談員派遣
 - 高校生ボランティアリーダー養成事業

これまでの見直し状況

H17 「心の教育推進専門委員会」と「いじめ・不登校問題対策専門委員会」を「特別委員会」に一本化。
 H19 「石川っすくすく大作戦すくすくノート」、「大人と子どものふれあい読書タイム」カード、「いじめ不登校対策チェックシート」をHPに掲載。
 (学校・家庭・保育園等で自由にダウンロード可。)
 H21 中高生グッドマナーキャンペーンの声かけ対象を小学生にまで拡大。
 (グッドマナーキャンペーンに名称変更。)
 H22 生活リズム向上推進事業の対象を幼児だけでなく児童にまで拡大。
 (幼児・げんきいっぱいカード 児童・げんきあっぷカード)
 H23 豊かな心を育む教育推進県民会議を廃止し、新たに心の教育推進協議会を設立。
 (「石川の教育振興基本計画」における「心の教育」の推進。)
 H24 高校生ボランティアリーダー養成事業の実施
 H25 ラジオ番組「いしかわ夢広場」における特別番組(講師による学校での講演)の放送
 H26 ラジオ番組「いしかわ夢広場」を「ハートフルいしかわ」に名称変更
 (生涯学習課関連事業の紹介、心の教育感謝状受賞者の活動紹介など)
 H26 家庭・地域でのいじめ・不登校等対策事業を統合
 (通学合宿の実施)

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価	A
課題	心の教育の推進					
指標	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数		単位	点		
目標値	現状値					
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	28,000	22,471	23,774	24,273	23,966	28,496

事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	10,449	9,124	8,447	8,815	7,940
	決算	10,439	8,557	8,447	8,528	7,940
一般	予算	10,449	9,124	8,447	8,815	7,940
	決算	10,439	8,557	8,447	8,528	7,940
財源	決算	10,439	8,557	8,447	8,528	7,940
事業費累計	421,412	429,969	438,416	446,944	454,884	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	心の教育推進事業である、グッドマナーキャンペーンの参加協力者数、子どもの生活リズム向上推進事業の達成割合、並びに「親子の手紙」の応募数が過去最高となるなど、学校・家庭・地域が連携した心の教育への関心の高まりがみられた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	いじめ・不登校、生活リズムの乱れ等、依然として憂慮すべき状況が子どもたちを取り巻いている。心の教育関連事業への参加者の増加等、県民意識の高揚は見られるが、今後も継続した息の長い取組を進め、より多くの県民がこれらの問題に関心を持ち、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりを推進していきたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 家庭教育総合推進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	石川の教育振興基本計画		

作成者	組 織	生涯学習課			
	職・氏名	課長補佐 清水由美子			
	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608			

1. 事業の背景・目的
 核家族化によって、保護者が身近な人から子育てを学ぶ機会が減少し、また地域のつながりが希薄化していることにより、悩みを抱え孤立しがちな保護者が多くなっている。そういった中、不登校やいじめの増加、小1プロブレム、児童虐待などの問題が多様化している。
 小学校入学前後の子どもをもつ保護者は友だちや学習、集団生活への適応などさまざまな不安や悩みを抱えがちであることから、保護者に対し、親学びの冊子や講座を通して学習の機会を提供することによって、家庭の教育力の向上をめざす。
 また、中学生の時期は、心身共に急激に成長する時期であり、保護者が思春期の心の特徴や子どもとの関わり方の理解を深めるため、冊子の配付や講座を通して親の学びの機会を提供したい。

2. 事業の概要

(1) 親学び冊子の作成
【新小学1年生向け】
 ① 配付時期: 小学校入学説明会(就学時健診)等
 ② 内 容: 規則正しい生活リズムの重要性、成長や発達段階に応じた親の役割、子どもとの関わり方等
 ③ 部 数: 14,000部
【新中学1年生向け】
 ① 配付時期: 中学校入学説明会
 ② 内 容: 思春期の心の特徴、子どもとの関わり方、規則正しい生活リズムの重要性
 ③ 部 数: 30,000部(平成27年度中学1年生の保護者にも配付)

(2) 親学び講座「肝心かなめの1年生塾」
 ① 時 期: 小中学校入学説明会(就学時健診)等
 ② 内 容: 親学びの冊子を配付し、家庭教育についての講座を開催
 ③ 対 象: 次年度小学校に入学する子供の保護者
 ④ その他: 講座修了後に希望者に「家庭教育に関する不安や悩み相談」タイムを設定する。

(3) 親学びアドバイザー養成研修会
 ① 時 期: 8月
 ② 講 師: 成田奈緒子氏(文教大学教授・小児科専門医・発達脳科学者)
 ③ 開 催 地: 1回
 ④ 対 象: 親学び講座の講師となる退職教員、現職教員(管理職を含む1名以上)など

3. 事業の効果
 ・親学びの冊子や講座により、保護者の家庭教育への学びを深める。
 ・悩みを気軽に相談できる機会を提供することにより、入学後の保護者の不安をやわらげる。

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	評価	A			
課題	親学び講座「肝心かなめの1年生塾」開催支援					
指標	親学び講座「肝心かなめの1年生塾」開催校の割合	単位	%			
目標値	現状値					
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	100				100	100
事業費						
	(単位: 千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				1,800	1,800
	決算				1,715	1,768
一般	予算				1,800	1,800
財源	決算				1,715	1,768
事業費累計			0	0	1,715	3,483
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	新小中学校1年生の子供を持つ保護者に対し、親学びの冊子を配付し、県内すべての公立小中学校で、親学び講座が開催されるよう支援することができた。入学説明会等保護者の多くが参加する機会開催された親学び講座では、規則正しい生活リズムの重要性等を周知し、家庭教育を支援することができた。また、保護者に対し、悩み相談を受け付けるなど、個別の支援も積極的に行われたことで、入学前の不安の軽減にもつながった。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	子供が小中学校に入学する時は保護者の心配や不安が大きくなるときである。引き続き、新小中学校1年生の子供をもつ保護者に対して、親学び冊子を配付するとともに、すべての小中学校で親学び講座が開催されるよう支援をしていく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 インターネット等適正利用推進事業費	事業開始年度	H26	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	石川の教育振興基本計画		

作	組	織	生涯学習課		
成	職・氏名	課長補佐 中尾 知巳			
者	電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5607			

事業の背景・目的
 インターネットの社会への急激な浸透により、携帯型音楽プレーヤー等を通して、小中学生でも簡単にSNSやオンラインゲームが利用できるようになり、書き込みによるいじめや不登校、ネット依存の増加など、インターネットに関する様々なトラブルが発生している。
 そこで、PTAが主体となり、親子でネットの危険性について学ぶとともに、子ども、親がネット問題について考える機会をもち、ネットとの上手な付き合い方についてのルール作りに取り組む事業を実施する。

事業の概要

- 1 「親子のホットとネット大作戦」パンフレットの作成・配付
 - (1)内容 ネットに潜む危険性やその安全対策、家庭でのルール作り等
 - (2)対象 小・中・高等学校・特別支援学校の全保護者
 - (3)部数 140,000部
 - (4)時期 7月
- 2 ホットとネット講座の開催
 - (1)内容
 ネットの危険性やネット依存の怖さや、その安全対策、家庭でのルール作りと日常の見守りなど、ネットと上手に付き合うことの必要性について、専門家による講演を通して保護者が学習する
 - (2)対象 小・中・高等学校・特別支援学校PTA、教職員
 - (3)時期 7月
 - (4)場所 内灘町民文化会館
- 3 情報交換会の開催
 - (1)内容
 各学校において、ホットとネット講座で配付されるマニュアル(CD)を活用し、子どものインターネット利用に潜む危険性を保護者が学習するとともに、家庭でのルール作りや見守りに向けて話し合う
 - (2)対象 小・中・高等学校・特別支援学校の全PTA
 - (3)時期 11月の教育ウィーク期間中など、保護者が多く集まる時期
- 4 事業の普及
 PTAの取組等をホームページへに掲載し、事業の周知を図る

施策・課題の状況						
施策	学校・家庭・地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上			評価	A	
課題	インターネット等の適正利用の推進					
	指標	各PTAにおける「情報交換会」の実施率		単位	%	
	目標値	現状値				
	平成28年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	100				98.5	100

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算				2,500	2,678
	決算				2,500	2,636
一般財源	予算				2,500	2,678
	決算				2,500	2,636
事業費累計					2,500	5,136

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	保護者を対象とした啓発パンフレットの配布と講座開催により、県内の全ての全日制公立小中高等学校がPTAと協力し、情報交換会を開催(1年前倒しで目標達成)でき、いじめや不登校につながるネットトラブル等の問題について保護者への啓発を推進できた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、子どもを取り巻くネット環境の変化に対応できるように、PTA関係団体等と連携しながら最新の情報等を保護者に伝え、フィルタリングやルールづくりの大切さを啓発していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ子ども自然学校推進事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度	
	根拠法令	石川の教育振興基本計画		
	・計画等			

作組	織	生涯学習課			
成職	・氏名	課長補佐 清水 由美子			
者電	話番号	076 - 225 - 1839 内線 5608			

事業の背景・目的

「いしかわ子ども自然学校」を開校し、体験活動期間の長期化も含めたプログラムの多様化を図り、大自然の摂理を体験的に学ぶ中で、自然保護の大切さや思いやりの心を育ませたり、自然の材料を素材として先人の生活の工夫を学ばせるなどの自然体験型環境教育の活動プログラムを実施する。

- 事業の概要**
- (1) 推進体制の整備
- ・指導者養成事業(指定管理者へ委託)
 - 子ども自然学校ボランティア養成事業(実施主体: 県立4施設)
 - ・学習教材等の整備充実(指定管理者へ委託)
 - 事前、事後学習及び野外活動に必要な教材備品等の整備(実施主体: 県立4施設)
- (2) 個人参加型プログラムの提供(指定管理者へ委託)
- ・オールシーズンチャレンジ
 - 1年を通じ、土・日・長期休業期間を利用し、通算10日間程度の活動
 - ・サマーチャレンジ
 - 夏季休業中に1泊2日～3泊4日程度の活動
 - ・ファミリーチャレンジ
 - 親子参加型の日帰り・1泊2日の活動
- (3) 広報・PR活動
- 案内パンフレットの作成(小学4～6年生に配布)

これまでの見直し状況

- H14～H18 学校活動型実践推進事業(毎年50校、5か年で全小学校に補助)
- H15～ インタープリターセミナーへの教員派遣(毎年50校)
- H18 学校活動型実践推進事業の検討(H19年度より廃止)
- H19 集団宿泊自然体験活動担当者連絡会議の開催
- H20 指定管理者へ委託
 - 石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」を開催(H24年度より廃止)

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	A
課題	いしかわ子ども自然学校の実施					
指標	「いしかわ子ども自然学校」参加者数			単位	人	
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
5,400	4,218	4,864	5,984	5,119	7,217	

事業費					
(単位: 千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費 予算	7,168	5,963	5,322	5,207	5,207
事業費 決算	6,943	5,799	5,077	5,155	5,170
一般 予算	7,168	5,963	5,322	5,207	5,207
財源 決算	6,943	5,799	5,077	5,155	5,170
事業費累計	156,695	162,494	167,571	172,726	177,896

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	個人参加型プログラムには26機関の協力を得て、196プログラムを実施し、7,217人の参加があった。また、ボランティア養成講座には、163名が参加し、子どもたちの自然体験活動の推進体制を整備することができた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	学習指導要領に集団宿泊体験や自然体験活動などの体験活動の重要性が掲げられ、さらに「石川の教育振興計画」にも「ふるさと体験の推進」を掲げている。体験が不足している現代の子どもたちには、自然に対する興味関心を高め、集団生活の中で、思いやりや協力する心、自立心などを育むこの事業は、社会をたくましく生き抜く力を養成する上で大変重要と考えている。今後も事業の充実を図っていきたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	海洋体験活動推進事業費	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	
		根拠法令・計画等	石川の教育振興基本計画		

作組	織	生涯学習課			
成職	氏名	課長補佐 清水 由美子			
者電	話番	号	076 - 225 - 1839 内線 5608		

事業の背景・目的
 能登高等学校実習船「おおとり丸」を活用した洋上体験や舢倉島での離島体験を通して、海洋生物調査または動植物観察による環境学習や島民との交流による離島生活に関する学習を行う。また、青少年教育施設での集団宿泊活動を行う中で、社会性やたくましさを育むとともに、参加した小中学生相互の交流を図る。

事業の概要
 (1) 体験内容
 ①Aコース(洋上体験+少年自然の家)
 [1日目]・鹿島少年自然の家: 自然体験活動(大池でのつり体験、野外炊飯、星空観察)
 [2日目]・「おおとり丸」: 七尾湾洋上体験活動(海水・生物調査等の環境学習、ロープワーク)
 ・のとじま水族館: 施設見学
 ・鹿島少年自然の家: 集団宿泊体験(肝だめし)
 [3日目]・鹿島少年自然の家: 自然体験活動(イカダ体験)
 ・期日: 7/22～24、7/29～31 (2回)
 ・定員: 72人
 ・参加費: 5,500円

②Bコース(少年自然の家+離島体験)
 [1日目]・能登少年自然の家: 自然体験活動(大型カヌー体験、磯遊びなど)、離島体験の事前学習
 [2日目]・舢倉島: 離島体験活動(島の人々との交流、野鳥・植物観察による環境学習)
 [3日目]・能登少年自然の家: 離島体験の発表会
 ・期日: 7/24～26、7/31～8/2 (2回)
 ・定員: 110人
 ・参加費: 小学生/6,500円 中学生/8,500円

(2) 対象
 Aコース 小学校5年生～中学校3年生
 Bコース 小学校4年生～中学校3年生

これまでの見直し状況
 H25 定員の増加 Aコース42人増加 (H24(30人/2回)) Bコース10人増加 (H24(50人/2回))
 行程の拡充 1泊2日→2泊3日
 直営から委託への切り替え
 H26 Aコースの定員・回数の見直し (H25(18人×4回)) → (H26(36人×2回))
 より多くの、児童・生徒同士の交流を図るため
 H27 Bコースの対象児童の見直し(4年生を対象に拡大)
 より広い異学年の児童・生徒の交流を図るため

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	A
課題	海洋チャレンジプログラムの実施					
	指標	参加児童・生徒の満足度			単位	%
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	100		98	98.8	96.3	98.2
事業費						
	(単位: 千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算		3,000	2,500	1,962	1,569
	決算		2,037	2,452	1,857	1,517
一般	予算		3,000	2,500	1,962	1,569
	決算		2,037	2,452	1,857	1,517
財源			2,037	4,489	6,346	7,863
事業費累計			2,037	4,489	6,346	7,863
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	参加児童・生徒の満足度は昨年度に引き続いて高く、本事業のねらいの1つとして掲げている、海洋体験活動を通して自然体験の楽しさや石川の海の豊かさを感じさせることができた。また、集団生活を通して、子ども同志の関わりが深まり、協力することの大切さなどを体感させることができた。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	直接体験が不足している現代の子どもたちに、洋上体験や海洋活動を通して、石川の海の豊かさや自然体験の楽しさを実感させるとともに、集団活動を通して自立性や協調性などを育てることは、子どもたちの社会をたくましく生き抜く力を育む上で大変重要であると考えている。「いしかわ子ども自然学校」同様、今後も事業の内容を充実させていきたい。			